



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/1 (月)	+ 400	▲ 19,600	▲ 19,200	国債発行・償還 (2年) 国庫短期証券発行・償還 (3M)	CP買入 ▲ 100 国債補完供給 + 9,800	国債買入 + 11,100	米：ISM製造業景況指数 (7月)
8/2 (火)	+ 1,000	トン	+ 1,000				
8/3 (水)	トン	▲ 85,000	▲ 85,000	消費税・法人税・保険掲げ 国債発行 (10年)	共通担保資金供給 ▲ 2,300		日：臨時国会召集 米：ISM非製造業総合景況指数 (7月)
8/4 (木)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000				英：政策金利と金融政策報告発表、総裁会見 米：新規失業保険申請件数 (7月30日終了週)
8/5 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000	物価連動国債発行			米：雇用統計 (7月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初国債発行等を主因に、先週末対比2兆5,800億円増加の550兆6,500億円から始まった。その後28日まで大きな変動はなく、週末29日に新型コロナウイルス感染症対応金融支援特別オペの期日落ちにより減少し、540兆7,100億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は大手行の調達意欲が強く、週を通して△0.010%で推移した。ターム物は、7月積み期内にエンドを迎えるものを中心に、主に△0.020%~△0.005%の水準で出が見られた。

来週的主要な予定は国内では、臨時国会の召集 (3日) などが、海外では英中銀による政策金利と金融政策報告の公表、総裁の会見 (4日) や米雇用統計 (7月) の公表などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.060 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### <レポ>

足許GC取引は週初△0.125%近辺の出合いから始まり、週央まで△0.13%~△0.10%のレンジで取引された。月末過ぎとなる29日受渡しの取引ではレートが低下し、一時的に△0.20%近辺の出合いも見られた。短国3Mの入札が行われた1日受渡しの取引は△0.15%近辺から出合い始めたが、その後△0.10%近辺まで上昇して越週した。SC取引は2年430~438回債、5年149~153回債、10年351~367回債、20年171~181回債、30年65~75回債、40年9~15回債などに引合いが多く見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.001 ~ 0.001

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆9,200億円で、週間償還額 (約2兆4,300億円) を下回った。発行市場は、月末の大量発行と電気業や鉄鋼、石油製品等の幅広い業種で大型案件が実施され、活況となった。発行残高は先週末の2兆3,174億円から、28日時点では2兆7,185億円に増加し、日次ベースでの過去最高を連日で更新した。市場残高が連日過去最高を更新しており、発行レートは、0%から若干のプラスレートでの出合いとなった。26日に、CP等買入オペが予定通り4,000億円で実施された。結果は、按分落札レート0.000% (前回△0.001%) ・平均落札レート0.019% (前回0.000%) と、按分・平均落札レートが共に前回比で上昇した。

来週の週間償還額は、約1,600億円となっている。発行市場は、資金調達ニーズが引き続き根強いものの、夏季休暇の影響もあり落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、0%近辺での出合いが多く、一部発行残高が積みあがった銘柄については若干のプラスレートを予想する。

【レンジ】CP3M (a-1+) △0.001%~0.001% 現先取引 △0.050%~0.000%

### <TDB>

7月29日の3M1098回債の入札は、最高落札利回り△0.1323% (前回債△0.1443%)、平均落札利回り△0.1419% (前回債△0.1527%) となった。来週は8月5日に3Mの入札がある。